

東京 国賀会

略史

発足は、昭和63年頃。三度の大浜氏、赤ノ江の長府氏ら先輩数名が発起人となり、東京都を中心に神奈川県、千葉県、埼玉県など関東地方に在住の西ノ島町出身者に声をかけ「東京国賀会」を立ち上げた。

以後2年に1度の総会と懇親会を重ねて、徐々に会員を増やし来年度は節目の第15回(30年)大会に至る。

活動内容

2年に1回の総会と懇親会を開催。島根県東京事務所が行う活動に協力したり、島根県が東京で行う「竹島問題集会」や「東京隠岐会」に積極的に参加。

また、西ノ島町が東京で開催する行事に協力し、会員が事あるごとに隠岐・西ノ島(特に国賀海岸の絶景)を宣伝。近年は、ふるさと納税制度に理解を

求め、一人でも多くの方が参加協力をしてくれるよう努めたいと考える。

歴代の会長

初代会長 大浜 貢也氏(三度出身)
二代目会長 上田 郁郎氏(浦郷出身)
三代目会長 米島 宏二氏(浦郷出身)
四代会長 佐藤 剛氏(珍崎出身)

会員数の推移

昭和63年発足当時 約60名
平成10年 約150名
平成20年 約210名
平成27年 約190名

入会について

【入会資格】

①関東地方に在住する西ノ島町出身者とその配偶者、子供

②右記の友人及び隠岐に興味がある方

【入会方法】

文章や口頭で住所氏名を申し出。

【窓口】

東京国賀会 会長 佐藤 剛

TEL/FAX 045・871・6171

西ノ島町役場 総務課

TEL 08514・6・0101

FAX 08514・6・0683

略史

会の原型が発足したのは、昭和28年頃。昭和35年11月22日に正式に国賀会総会を開催し、会則を施行する。

途中、事情により総会の開催が行えない年もあったが、今年度、節目である50回目の総会を開催。

活動内容

年間10回に渡り役員会を開催。次回総会会場の選定、参加者(特に若者)を増やすための協議を行う。理事候補者や新規会員等の情報交換を行う。

色々な場面で西ノ島町のPR・宣伝活動を行っている。

歴代の会長

初代会長 小泉 喜一氏
二代目会長 篠木 伊勢雄氏
三代目会長 玉木 氏
四代会長 吉本 義信氏
五代目会長 三沢 悦夫氏
六代会長 藤田 武夫氏

会員数の推移

ここ数年は750名前後で推移している。

入会について

【入会資格】

①近畿地方に在住する西ノ島町出身者とその配偶者、子供

②右記の友人及び隠岐に興味がある方

【入会方法】

文章や口頭で住所氏名を申し出。

【窓口】

近畿国賀会 会長 奥本 晃久

TEL/FAX 072・840・2687

西ノ島町役場 総務課

TEL 08514・6・0101

FAX 08514・6・0683

近畿 国賀会



▲昭和40年頃の近畿国賀会総会
(参考：運河のある町)



東京国賀会 会長 佐藤 剛さん

若い人への入会促進を積極的に

現在、国賀会は近年若い人の入会が少なく、先々の会の存続が不安な状況が続いています。

同じ都会に住む西ノ島町出郷者が、年代関係なく集まれる場は他に少なく、西ノ島町の思い出話や情報交換が出来たり、とても貴重な場です。

東京国賀会四代目会長である佐藤会長はじめ会員の皆さんは、総会や懇親会の時など、参加者のお子さんに声をかけたり、その友人に候補者がいないかなど、機会を見つけては協力を求めたり、積極的に声かけし、入会への促進活動を行っています。

節目の第15回総会に向けて

「第14回東京国賀会の懇親会の催し物で行われた、県の無形文化財に指定されている「隠岐島前神楽」は、地元の方はもちろん来賓の方々から大変好評で、とても素晴らしいものが見れたと、数々の賞賛のお言葉を頂いた。」

そのように、佐藤会長は振り返られます。次回、2016年に開催予定である、節目の第15回総会・懇親会に向け、「参加者を集い、これまでの会以上に素晴らしい総会・懇親会にしたい。」と、次の国賀会に向け、先を見据えています。

故郷・西ノ島におもうちこと

佐藤会長が、西ノ島町を離れ、約50年の月日経ち、昔と今では随分と西ノ島町も変化しているといいます。「環境の面で、道路・港湾が綺麗に整

東京・近畿国賀会の両会長にインタビュー

備されていると感じたし、水道も整備され良質な水が行き届いている。また、子供たちの挨拶がしっかりしている。大人も見習って欲しいほど。」何気に暮らしている環境だからこそ、なかなか気づけないことがある。

それを教えて頂けた一言でした。

「最後に、これまで色々な観光地を訪れたが、国賀の絶景は全国どこへ行ってもその雄大さは群を抜いて一番。」そう話す佐藤会長からは、故郷西ノ島町に対する、誇りとこれからへの期待が感じられました。

歴史ある近畿国賀会を

これからも存続させたい

昭和28年の発足から、今年、第50回の総会・懇親会を迎えた近畿国賀会。東京国賀会と同様に、若手不足に悩んでいるのが現状で、近畿国賀会八代目会長である奥本会長は、「特に、西ノ島中学校卒業生で若い人が役員になつてくれると、若者の意見によつて、会が活性化し、活動の幅が広がったりと、国賀会に参加しやすくなると思う。歴史ある国賀会を後世に残せるよう、



近畿国賀会 会長 奥本 晃久さん

色々な方と手を取り合つて築き上げていきたい。」と語られます。先人が伝え、守り続けてきた国賀会の存続への道筋を模索している奥本会長からは、国賀会に対する熱意が伝わってきました。

西ノ島をより行きやすい島へ

現在、大阪府に在住の奥本会長。しかし、心の中にはいつも故郷・西ノ島があり、西ノ島町の未来について考えていることです。

今は昔と比べると、若い人が減り、観光客も減少しているのが現状です。しかしながら、「以前と比べると交通の便は大変良くなったと感じるし、PRのやり方で随分と西ノ島は変わると思う。」そう、言われます。

豊かな水産資源を活かし、イカや魚釣り好きに焦点を当て、遊漁船をPRしたり、ターゲット層を広げ、行きやすい島を目指すことが大事なのではと話されました。

今回、このインタビューを通して、お二人や様々な出郷者の方々がいかに故郷を思いやっているかが伝わってきました。

色々な地域に住む西ノ島町出郷者の方々には、色々な場面で、西ノ島町を応援して頂いており、国賀会を通じて、新たな出郷者に対し、アドバイス等を行っていただいております。

このような国賀会が、ますます発展し、若者からお年寄りまで大勢の出郷者の心の支えになる会に育つよう、西ノ島町も応援いたします。